

日英比較表現論（４）

南 満幸 ●メディアと表現

●要約

本稿は、南（1999 b）の“続編”である。前稿では、いわゆる「身体表現」における日本語と英語の“発想”の類似点・相違点を「頭」から始めて、「首」・「肩」・「腕」・「手」まで追ったが、紙幅の制限・時間的な制約などの諸事情のため、「未完」の状態で終わってしまった。

そこで、本稿では上記５項目に出来るだけ多くの項目を付け加えることによって、前稿・本稿と合わせて、一応の「完結」を見るようにしたい。

論の進め方、及び判定方法は、基本的に、前稿の方式を踏襲するものとする。即ち、

（１）日本語の身体表現（例えば、「頭」を含んだ表現）を英訳した時、それに対応する英単語（この場合 head）を用いるのが最も自然な場合は○、それも可能だがそれと同等以上に自然な他の表現がある場合は△、対応する英単語を用いた英訳が無理な場合は×、というふうに、やや大雑把ながら３種類に分類してみる。

（２）次いで、「英語→日本語」という逆方向から同様の分析を行なう。

という手順を踏んで行く。

●キーワード

身体表現

日英語比較

発想

Keywords

body-part expression

comparison between Japanese and English

conception